

2020年度

三重大学 人文学部法律経済学科

特殊講義「協同組合論」



<第4回(オンデマンド)> 「大学と協同組合」

山本 昌也 / 三重大学生生活協同組合専務理事

第4回（10月26日）：受講 45 名（市民開放授業一般受講者等を含む）

大学生協の歴史や、大学生協のしくみと取り組み、組合員としての自覚や主体性、生協運営への積極的な参加について理解を深めていただきたい。

大学生協の背景には、必ず大学生の暮らしが向上するよう願う気持ちが存在する。営利を目的とせず、組合員の生活向上のために三重大学に大学生協を組織し、学生と教職員で運営している。

【第4回／講義の要旨】

- ・日本には 800 程の大学があり約 260 万人の大学生がいる。大学生協は 214 の大学にあり 157 万人の組合員がいる。三重大学生協は 1970 年に設立された。大学生協のない大学に通う大学生が生協に加入できるインターカレッジコープもある。
- ・1926 年に、賀川豊彦らの援助を受けて、東京学生消費組合が発足するが、軍国主義による統制などから弾圧を受けて 1940 年に解散することになる。また、太平洋戦争では、学徒出陣により多くの大学生が尊い命を失った。戦後、多くの大学に生協が生まれた。これまでの経験と教訓から大学生協は「よりよき生活と平和のために」というスローガンを掲げ継承している。
- ・大学生協の誕生・設立の背景には、必ず大学生の暮らしの向上を願う気持ちが存在する。営利を目的とする業者が営業するのではなく、生活の向上を願う学生や教職員が大学生協を運営している。出資金を出し合い、それを元手に事業をおこない、組合員が事業を利用することで剰余が生まれ、その剰余は外に流れることなく魅力ある大学づくりの活動に還元されている。
- ・生協の日常的な店舗・事業は生協職員が委託を受ける形で営まれている。お店の中にある商品を買うというだけでは、お店とお客という結びつきでしかない。学生のための生協をつくっていくには組合員の参加が不可欠である。生協は、出資者であり利用者である組合員が運営に参加をしてこそ成り立つ組織である。つまり、組合員は単なるサービスの受け手ではなく自らの生協を自らの手で作り上げる主人公であることを意味する。

第4回講義／受講生のレポート（抜粋）

- ・大学生協は、誰かが運営しているわけではなく、皆で運営していくものである。このコロナ禍により経営が厳しくなっているが、大学生協が誕生した背景を学び、大学生協の存在価値を学びなおし、今後とも続いていけるよう自分事として大学生協を捉えていく必要があると感じました。
- ・生協は大学の利益目的のために設立されたのではなく、大学生や教職員が大学生の生活向上を願い設立した。しかし、生協と大学は、設立初期対立していた。そこから魅力ある大学作りに事業で貢献してきたことが今に繋がっている。こういった生協の歴史は生協のルーツや目的を知る上で重要だと感じた。
- ・入学当初から存在しており、あまりその成り立ちや関わり方について意識したことがない大学生協の歴史や仕組みについて深く知ることが出来て良かったと感じた。おそらくこの講義を受講していなければ大学生協についてここまでの理解をすることなく卒業していたと思う。また、今まで希薄であった組合員であるという自覚を持って、総代会に出席する機会があれば積極的に出席してみたり、ニーズを伝えたりしていくことが重要であると感じた。
- ・大学生協が戦前からの歴史を持つことに驚いた。勝手に学生運動のころからのものと思っていたので、一度バラバラになり大学との対立関係にあったことを思うと、その成り立ちは簡単にできたものではないと強く感じた。また、組合員は運営者でもあるということで、今はコロナの影響で生協どころか大学にさえ訪れる機会は少ないので、通う頻度が戻ってきた時には運営者の目線でも生協の仕事のみをみてもよいと思った。
- ・今回の講義では生協を通して協同組合について理解を深めた。大学生協は様々なことを考えて運営していることがよくわかった。特に三重大の生協が目指している、協同、協力、自立、参加と4つの使命をしっかりと全うしているから成り立っていると感じた。大学生協が目指している3つのミッションも、とても生協を維持する上で重要であると感じた。特に三重大と共に学びと成長をするという考えは納得した。生協では出資、利用、運営と全てをみんなですることによって上手く円滑しているのもよくわかった。
- ・コロナで授業がオンラインになった中で、大学生協も教科書販売方法の変更や店頭販売の売り上げ低下といった問題が起きているとは、思いもしませんでした。大変なのは自分や他の学生だけでなく、大学全体や生協も大変な状況であるということを実感しました。その大変な中で生協の工夫や取り組みなど生協の職員が私たち学生の為に頑張ってくれていることに感謝しなければいけないと思いました。私は編入生なのでまだ学食や売店に行ったことはありません。来年、学校に通えるようになったら利用することを楽しみに後期も頑張ろうと思います。
- ・今回の講義は、自分に一番身近な大学生協に関する事だったので、実体験などを踏まえることができ、いつも以上に理解が深まった。今は、コロナの影響で大学に行くことがなく、翠陵店や学食にも行けないが、今回の講義で自分は大学生協の組合員であると実感したので、これからはそんな私たちの大学生活がよりよくあるために生協はどうあるべきか、今まで学んだ協同組合の定義なども踏まえて考えていきたい。
- ・この講義を聞くまで、生協と私はお店とお客さんの関係だと思っていた。しかし、私たちは生協組合員であるため、実は運営していく立場であると知るととても驚いた。確かに生協には入学したらみんな入らなければならないと思って加入したが、組合員になっているからには積極的に活動に参加しなければならないし、組合員としての意識を持たなければならないなと感じた。

- ・ 私たちも運営に参加していたということを改めて実感しました。入学するときに生協については説明してもらっていたので生協に入る時のお金で運営していて循環させている事を知っていましたし、希望すれば生協で働くことができるというのも知っていたのですが、そうではない人がひとこねカードで自分の声を届け、実際に生協を使うことで参加できているということを初めて知りました。生協は普通の書店より文房具も書籍も安いので私自身とても助かっているのですが、その生協を今後も運営し続けられるように今後も運営に参加していきたいと思いました。
- ・ 生協は、正直購買と食堂くらいしか使っている実感がなかったが、他にも日々の大学生活で役に立ちそうな便利な仕組みやサービスがあることが分かった。ただ、コロナの影響もあって、学校に生協に行けていないので、今回の講義で知った生協のとりくみを意識して利用してみることが当分先のことになってしまうのが残念でならないと本当に思う。また、今回の講義において生協が新型コロナウイルス感染症の影響で大変大きな損失を受けていることを赤裸々に聞いて良かったと思う。実際、どうなっているのかは気になっていたところだし、一年次お世話になった生協が苦しい状況にあるということが実感できた。それと同時に、これがきっかけで自分自身が生協の組合員の一人であるという自覚と、何とか力になれないかと強く思った。
- ・ 生協の組合員であるにもかかわらず生協の取り組みや何を目的として活動しているかなどをわかっていなかったが、今回の講義で生協について多くのことを学ぶことができ、少しでも貢献や助け合いに参加していきたいと思った。改めて生協組合の一人であることを自覚し、組合員の1人としてより良くしていくために協力しようと思う。新型コロナが広まる中売り上げが上がらないのに利用者のためを思って取り組んでいることを知り、何かできることはないか考えようと思う。
- ・ 三重大学生協もコロナウイルスによって卒業・入学シーズンのイベントが中止になる、オンラインによる教科書販売の準備・実施、食堂・翠陵店の利用者減少といった様々な影響が出ており、経営状況を見ても非常に厳しいことが分かりました。実際にお店に行くことは難しいが、別の何かの手段で支援できたらいいなと感じました。コロナウイルス感染症を悲観的に考えるのではなく、この事態から大学生協の弱みなど明らかになったこともあると思うので、その点に力を入れ、改善していくことで、再びこのような事態が起こってしまった場合に備えることが可能であると思いました。
- ・ 大学生協の取り組みの中で協同組合が大切にしている「助け合い」という姿勢を持った考え方によって、私たちも知らぬ間に、ある一人の人の助けとなっている行動をすることが出来ていることに、すごくうれしさを感じられました。また、今コロナ禍で大学に行けていない状況が続いているが、大学に行く機会が少しでもあれば生協の利用をしていき、生協の組合員＝運営者として今後の生協の支えとなっていけたらいいと感じました。
- ・ コロナウイルス感染症拡大によって大学生協も様々な変化を強いられ、人と人とのつながりの中で成長を育む大学生協の基本的価値が問われるようになった。しかし、これをマイナスにとらえるのではなく、今後またこのような事態が発生した場合の教訓にすると同時に、大学生協の弱みであるICTの活用、Webサービスの対応により一層力を入れる良い機会であると感じました。

以上